

区民と区長のタウンミーティング概要

日 時	令和元年5月22日(水) 19時から20時30分
会 場	区役所 第9, 10会議室
テ ー マ	新しい基本構想について「健康・医療・福祉」
出席者 区 民	計 22人
区 側	区長 企画部基本構想担当課長 地域活動推進課長 福祉推進課長 スポーツ振興課長 生活保護担当課長
事務局	企画課職員3人、地域活動推進課職員1人、スポーツ振興課職員1人
一 時 保 育	無
手 話 通 訳	無

テーマ「新しい基本構想について「健康・医療・福祉」

区長あいさつ

現在、区では基本構想の改定に取り組んでおり、健康・医療・福祉をテーマに今日は開催する。健康については、健康寿命をどうのばしたらいいか、今後の健康づくりについて、子どもから大人まで年代を問わず幅広くご議論いただけたらと思う。医療については、地域包括ケアという理念があって、医療、介護や生活支援などのサービスが一体的に提供され、誰もがその地域で住み続けられるまちを、中野区は目指しており、その中で医療は重要な位置を占めている。福祉については、かなり多岐にわたっているが、中野区の福祉の現状、皆さんの関心のあるところでご意見いただきたい。区の関係団体等の区民と学識経験者による審議会があり、基本構想について審議しているが、皆さんの意見をまとめたものを、審議会でも議論する際の素材として、必ず届けさせていただくので、皆さんの考え、意見をいただきたい。

各グループの発表概要

■健康について

- ・がん検診を中心に健康診断の受診率を上げる工夫をして、受診できる機会という点での格差をなくしていく必要があると思う。また、健康診断の本人負担をなくしてほしい。
- ・子どもの時から運動する機会を作って、健康づくりを習慣化する必要がある。子どもが体を動かせるようなみどりの整備を進めてほしい。
- ・自然に健康になるまちづくりを進める必要がある。外に出歩きたくなるように、ベンチが多くて休憩しやすいまちになるとよい。また、歩道に看板が出ているところがあるので改善して、歩きやすい公道にしてほしい。
- ・ウォーキングコースをたくさん提供したり、ヘルシーランチの店を増やす取り組みをしてほしい。
- ・禁煙だけでなく、分煙も必要だと思う。

■医療について

- ・外来・入院・在宅までのネットワークづくりを進めてほしい。またかかりつけ医との関係や、かかりやすさも充実させる必要があると思う。

■福祉について

- ・東中野駅東口のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・区内に特別養護老人ホームを増やしてほしい。
- ・区民の認知症への理解を深めてほしい。
- ・働くことは社会貢献にもつながるので、高齢者の就労支援に取り組んでほしい。
- ・町会・自治会は若い人たちに参加してほしいと思っている一方で、若い人は入りづらいと思っている。このミスマッチを解消してほしい。

- ・地域を支えている民生児童委員が足りていない現状もあるので、退職した後、地域活動に参加しやすい環境づくりが必要だと思う。
- ・「せせらぎ」等の障害者施設が足りていないと感じるので、充実させる必要があると思う。
- ・障害児の保護者がフルタイムで働くために保育園の長時間利用を可能にしてほしい。
- ・小学校では、インクルーシブ教育をすすめていき、障害者と一緒に育っていくことで理解を深めていってほしい。
- ・区が、なんでも相談会の開催等で、若い人の話を聴く機会を作り、ニーズを把握する必要があると思う。
- ・振り込め詐欺防止の対策をしてほしい。
- ・国民健康保険料を下げてほしい。

発表に対する区長のコメント

■健康について

- ・健康診断の受診率を向上させることで、病気の早期発見による医療費の抑制が期待できるため、取り組んでいきたい。ただし、他区の状況を見ると、健康診断の自己負担無料化と受診率向上には、必ずしも相関関係が見られるわけではないので、無料化は慎重に検討したい。
- ・自分が子どもの頃は、外で遊ぶしかなかったが、今の子どもたちは児童館等で、ゲームをする子どもが多く、子どもが体を動かす機会が減っていると感じている。
- ・「ベンチを増やして高齢者が出歩きたくなるまちに近づく」というようなキャッチフレーズを基本構想の中にも入れて、まちづくりを進めていきたいと考えている。歩道に看板が出ていて歩きにくいところは、今後指導していく。
- ・ヘルシーランチはお金をかけずに区民の健康を促進できる取り組みだと思うので、区としても検討したい。
- ・たばこについて、禁煙の方が身体にはいい。たばこ税の税収は大事ではあるが、禁煙は進めないといけない。分煙を進めていくことも大事。

■医療について

- ・入院から在宅療養に切り替わるときに、電話でケアマネジャーに相談できる窓口を最近区でも開設した。在宅療養を希望される人が多く、需要はこれからも増えると考えられるが、必要な医療資源がなくて家に戻れない方が現状いるのが事実である。そうすると、10年後には死亡者数が増えるので、看取りが増えると考えられる。病院のソーシャルワーカーと、区の窓口と、地域の医療資源であるかかりつけ医が結びつくことが大事である。

■福祉について

- ・東中野駅東口について、今年度、調査を実施する。
- ・中野には特別養護老人ホームが足りておらず、他自治体の特別養護老人ホームに入居している区民が多い現状がある。しかし、施設増設は難しいので、他自治体との連携のほか、在宅療養の環境整備が重要だと考えている。
- ・認知症については、認知症サポーター養成講座を実施している。また、区内に認知症カフェがあるので一度行ってみてほしい。
- ・高齢者の就労について、再雇用の流れがある中で、働きたい人が働ける環境の整備は、区としても進めていかないといけない。働くことによって、社会貢献はもちろんだが、健康にもつながる。区としても支援していきたい。
- ・地域で活動している団体、町会・自治会だけではなく、NPOなどたくさんあるが、軒並み高齢化している。国をあげて施策を打っていた時期に地域活動を始めた方がみんな高齢化した、その一方で、若い人の参加が進んでいない。
- ・障害者の施設増や施策が遅れている部分もある。精神障害者が増えているとともに、発達障害や支援が必要な子が増えている。障害児が希望どおり保育園や幼稚園を利用できていないという問題もある。全てに対応することは難しく、近隣区にお世話になっている方もいるが、小学校でのインクルーシブ教育も増えており、そういったニーズに応えていくよう検討していかないといけないと考えている。
- ・若者の支援について、就職サポートが必要だと思うが、始められていない。8050問題といって、80代の親と50代の無職の子どもが親の年金収入だけで暮らしているという世帯があり、まだ顕在化してないが、親が亡くなった場合、年金収入がなくなった無職の子どもが残るため、今後大きな問題になると認識している。国勢調査をもとに考えると、中野区でもかなりの数ある見込みだ。
- ・振り込め詐欺の被害は中野区でも多く発生している。対策としては、注意喚起のほかに、自動通話録音機を電話機に取り付けるのが効果的だと聞いている。今年度の区の自動通話録音機の貸与事業により自動通話録音機の貸与数が区内で1100台を超える予定だが、区内に高齢世帯は5万世帯ほどあるため、総数としては足りてない。自動通話録音機のニーズが増えて生産が需要に追いついていない。
- ・国民健康保険料は、高いという認識はあるが、国の法律に基づき保険者として運営しているため、自治体がカバーするのは難しい。